

第5次蟹江町総合計画 団体調査 報告書

1. 調査概要

(1) 目的

第5次蟹江町総合計画の策定に当たり、蟹江町の各分野別の団体に対して、調査票等によりヒアリングを行うことにより、得られた意見を総合計画分野別計画の施策等に反映させることで、町民の意見を反映した計画にする。

(2) 方式

○個別ヒアリング：対面方式（4団体）、オンライン方式（1団体）

○調査表郵送によるヒアリング（11団体）

(3) 対象団体

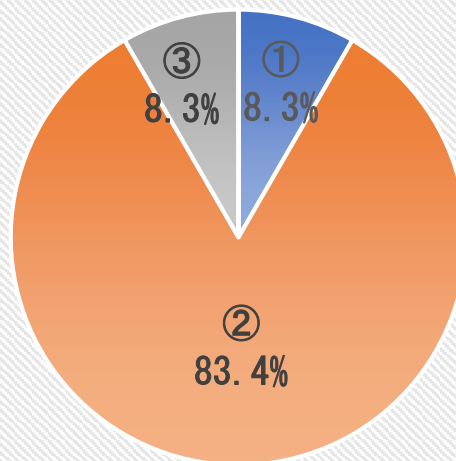
	団体名	活動分野	ヒアリング方式
1	子育て応援情報誌「ママノア」編集部	分野別計画① 子育て・健康・福祉	郵 送
2	NPO法人介護研究会 笑	分野別計画① 子育て・健康・福祉	郵 送
3	NPO法人にここママネットワーク	分野別計画① 子育て・健康・福祉	オンライン
4	NPO法人生き生きかにえスポーツクラブ	分野別計画② 教育・文化	郵 送
5	蟹江町スポーツ協会	分野別計画② 教育・文化	郵 送
6	蟹江町文化協会	分野別計画② 教育・文化	郵 送
7	かにえ国際交流友の会	分野別計画② 教育・文化	郵 送
8	学戸ホテルの会	分野別計画② 教育・文化	郵 送
9	非営利団体ONIGIRI	分野別計画③ 環境・安全	郵 送
10	蟹江川をきれいにする会	分野別計画③ 環境・安全	郵 送
11	富吉防犯パトロール隊	分野別計画③ 環境・安全	郵 送
12	商工会青年部	分野別計画④ 都市基盤・産業	対 面
13	蟹江一番街発展会	分野別計画④ 都市基盤・産業	対 面
14	尾張温泉郷発展会	分野別計画④ 都市基盤・産業	対 面
15	アROUND近鉄蟹江発展会	分野別計画④ 都市基盤・産業	対 面
16	あいち海部農業協同組合 蟹江支店	分野別計画④ 都市基盤・産業	郵 送

(4) 集計結果

■地域をより良くするために、どのような方法でまちづくりを進めるのが望ましいと思いますか。

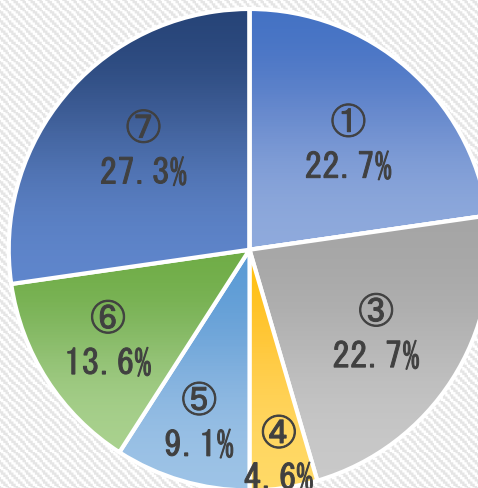
(対面方式を除く 12 団体から回答)

選 択 肢	票数
① 住民が主体となって取り組み、行政はあくまでも側面から支援する	1
② 住民と行政が話し合い、役割分担をしながら協働で取り組む	10
③ 行政が主体となって取り組み、住民は理解し、協力する	1
④ 行政が住民の要望を把握しながら、行政が主体となって取り組む	0
⑤ その他	0



■町民と行政が協働してまちづくりに取り組むうえで、何が必要だと思いますか。(複数回答可)

選 択 肢	票数
① 町民と行政との交流や意見交換する機会	5
② 町政情報の公開	0
③ まちづくりや計画づくりに町民が参加する機会	5
④ 町民が自らの活動情報などを発信できる機会	1
⑤ 町民が参加できるイベント・事業の実施	2
⑥ まちづくりの中心となる担い手、人材育成	3
⑦ 町民活動のための財源、補助金等	6
⑧ 町民活動に関する相談サポート体制	0



■各団体からの主な意見について

※◆分野別計画に反映 ◇重点戦略に反映

分野	各団体からの主なご意見	町の対応
【子育て・福祉・健康】 1.「ふれあい、ささえあい」ホッとやすらぐまちづくり	○支援センターが増えた。 ○病児保育室が設置された。 ○保育料が無償化になった。 ○予防接種が増えた。 ○幼稚園の延長保育が実施された。 ○一時預かりや病児保育、学童保育の改善。	◆1-1 子育て包括支援 (P2) ◆1-2 保育、幼児教育、学童保育(P4)
	○子どもたちの遊ぶ場所が少なくなっている。特に公園の数は学区によって差があるので、難しいと思うが遊べる場所を増やしてほしい。 ○子どもたちが遊べる場所、公園を設置してほしい。(プレーパークなど)	◆4-4 公園・緑地・景観 (P44) ◇遊びの場づくり (P18)
	○高齢者福祉の相談体制が充実してきつつあること。 ○地域で障がいのあるなしに関わらず住みよい蟹江（社会）づくり。 ○各地域にふれ合いサロンが増えた。 ○権利養護の活動に力を入れていきたい。 ○要介護度がある人でゴミ出しに困っている人がいる。	◆1-3 高齢者福祉(P6) ◆1-4 障がい者福祉 (P8) ◆1-5 地域福祉・生活困窮対策(P10)
【教育・文化】 2.「歴史・文化・愛着」誇りを育むまちづくり	○近隣市町や他団体との交流などあらゆる世代の方々と芸術や趣味を通して多くの仲間を持ち会員の加入を促進し、人づくりの生涯学習の場にしたい。 ○生活様式や情報の多様化、会員の高齢化により、指導者の育成と会員の加入促進が課題。 ○学校施設の有効活用を図り、子ども達の体力向上に取り組みたい。 ○中学生・高校生・大学生が積極的にスポーツ活動に参加できる体制づくりをしていきたい。 ○常時・展示発表できる施設がほしい。 ○夏の熱中症対策。	◆2-2 生涯学習(P18) ◆2-3 歴史文化の継承 (P20) ◆2-5 生涯スポーツ (P24) ◇生涯学習・生涯スポーツ・健康づくりの促進(P22)
【環境・安全】 3.「住み続けられる」安全・安心なまちづくり	○保存食・保存水が最低限ではあるが備蓄できた。 ○浸水対策としてのボートを自主防災対策として町の補助金により備え付けた。 ○防犯灯の増設とLED化により夜間の明るさが向上し、以前に比べ治安が向上したが、まだ暗いところもある。 ○浸水対策について、個人の意識が低く、備えが出来ていない。このため、ハザードマップをベースに作成したDVDにより、住民の意識啓発を早期にしたい。 ○住宅侵入盗が減少した。今後は撲滅をめざしていきたい。 ○災害への備え・防災意識の欠如。 ○避難所へ太陽光電池を設置。 ○防災訓練の繰り返し実践。	◆3-5 防災・危機管理 (P34) ◆3-6 防犯・交通安全 (P36) ◇防災意識向上の促進と防災コミュニティづくり(P20)

分野	各団体からの主なご意見	町の対応
【環境・安全】 3.「住み続けられる」 安全・安心なまちづくり	○特別警報が発令された時の住民への周知方法の改善。	◆3-5 防災・危機管理(P34)
	○川面に浮いていたごみの量は減少したが、不法投棄が増加したので、町民に一層のご協力を求めたい。 ○ホタルの幼虫が少なくなっている。	◆3-1 地域環境の保全(P26)
【都市基盤・産業】 4.「ちょうどいい」 快適・便利なまちづくり	○土地改良区での水路管理が行き届いた。 ○相続による農業離れや耕作放棄地の増加が心配、今後農地集積をどのように進めていくかが課題。 ○富吉駅南地区の発展が進まない。 ○宝地区の開発。 ○企業を誘致してほしい。	◆4-5 農業(P46) ◆4-3 市街地整備・住環境(P42)
	○いちじくのPR 努力により他県や名古屋市内からのお問い合わせが増えた。	◆4-5 農業(P46)
	○SNS を活用し、町外に蟹江の魅力を発信することに力を入れていきたい。 ○シャッター街で行う体験コースに取り組んでいきたい。	◆4-8 観光・シティプロモーション(P52)
	○世代交代を行っている。内容のマンネリ化を若い世代の力で打破したい。 ○若い世代の新規創業者は多い。 ○最近、女性経営者が増えてきた。女性経営者が増えると、情報発信力が高くなる。みんなが意見を言いやすくなる、人の使い方も含めて男性と違うので、いろいろなメリットがある。女性が委員会などに入りやすい環境を作っていきたい。	◆4-7 商業・サービス業(P50) ◆5-2 共生社会の推進(P56) ◇事業所・商店街の活性化(P9) ◇蟹江の魅力を発掘・再発見(P13)
	○発展会の活動として、コロナ禍でのインターネット販売等を実施（未来チケット 3000 冊完売）、動画配信などに取り組んでいる。	
	○行政と住民が協働で事業を行う土台や基礎が出来つつあると思う。 ○国際理解教育の推進等で、外国人に対する偏見が減り、理解が進んでいる。	◆5-1 自治・協働(P54) ◆5-2 共生社会の推進(P56)
【行財政・共生】 5.「みんなで取り組む」 元気なまちづくり	○フェスタなど行政と連携したイベントが増えた。 ○市民団体が増えた。 ○中間支援団体に助けられたので、そのような存在になりたいと思っている。 ○担い手となるリーダーの確保と人材育成が課題。 ○子ども会など参加者が減っている。 ○いろんな人が気軽に参加できるよう協働事業を改善してほしい。	◆5-1 自治・協働(P54)

2. ヒアリング結果

①子育て応援隊情報誌「ママノア」編集部

団体の人数（メンバー構成）および活動範囲について

活動年数	構成人数
6年目	構成員 5人 女性 5人 平均年齢 40歳くらい

問 団体の活動分野

○子育て支援

問 団体の活動内容

○子育て情報誌「ママノア」を年に1回、発行。
○蟹江町に住むママ、パパ、おじいちゃん、おばあちゃんが忙しい育児の合間に見て少しでも楽しんでもらえれば、という思いで発行を続けています。

問 団体が活動するうえで、課題となっていること。

○5年間、町内での活動を主にやってきましたが、やはり蟹江町だけでの配布や発行には限界がある。しかしながら、どの方面に範囲を広げればいいのかもよくわからない。このままの規模で維持していくか、もっと広めていくべきか、迷っています。

問 今後、力を入れていきたいと考えている活動、積極的に取り組みたいと考えている活動について。

○ママたちの思い、困っていることを聞いて、行政につなげたい。ママはもちろんのこと、パパやおじいちゃんおばあちゃんも楽しく子育てできるように、できるだけ多くの人を巻き込んで関わってもらえるような誌面作りを意識しています。できれば育児で悩みを抱えるママを助けたいです。

問 第5次蟹江町総合計画の策定に際して基本計画案（分野別施策）について

分野	この10年で良くなったこと 改善されたと感じること	課題である、不安であると感じること 改善を求めること
【子育て・福祉・健康】 1.「ふれあい、ささえあい」 ホッとやすらぐまちづくり	○支援センターが増えた。 ○病児保育が設置された。 ○保育料の無償化。	○一時預かりや病児保育、学童保育のシステムの改善。
【行財政・共生】 5.「みんなで取り組む」元気なまちづくり	○色々な企画や試みを実施していること。 ○民間の団体の活動を支援していること。	○協働事業のシステム改善、「人件費が出ない」「ステップアップしなくてはいけない」「事業経費が上限に達しなかった場合は、かかった経費に対して補助金が交付される」など条件が厳しい。もっといろいろな人が気軽に参加できるような制度設定を考えてほしい。

その他の意見

○一時預かりや病児保育は少し制約が厳しいように思える。（他の幼稚園で通っていたら利用することができないなど）
○学童保育も同じく条件が厳しい。（年度途中の申込みができない、働いていないと申し込めない）

②NPO法人介護研究会 笑

団体の人数（メンバー構成）および活動範囲

活動年数	構成人数
9 年目	構成員 11 人 内 男性 3 人 女性 8 人 平均年齢 60 歳くらい

問 団体の活動分野

高齢者福祉、障がい者（児）福祉、地域福祉、介護支援、地域組織・住民活動支援

問 団体の活動内容

○介護人材育成（研修等）、サロン・カフェ等の地域福祉活動、介護施設等の運営指導
介護関係法人に対する、事業運営評価、成年後見等、権利養護

問 団体が活動するうえで、課題となっていること。

- 経済的には苦しい（設けることは望めない）
- NPO 法人としての運営主体の高齢化（後継者がいない）

問 今後、力を入れていきたいと考えている活動、積極的に取り組みたいと考えている活動について。

○権利擁護の活動、地域で障がいのあるなしに関わらず住みよい蟹江（社会）づくり

問 第5次蟹江町総合計画の策定に際して基本計画案（分野別施策）について

分野	この10年で良くなったこと 改善されたと感じる事	課題である、不安であると感じること 改善を求めること
【子育て・福祉・健康】 1.「ふれあい、ささえあい」ホッとやすらぐまちづくり	○高齢者福祉の相談体制が充実してきつつあること。	○かにえまるとサポートセンターの利用が要支援1、要支援2のみであり要介護度がある人でゴミ出しに困っている人がいる。 ○ボランティアでやっているが町、独自のサービスがあると助かります。

③NPO法人にこここママネットワーク

団体の人数（メンバー構成）および活動範囲

活動年数	構成人数
10 年目	構成員 50 人 女性 50 人 平均年齢 38 歳くらい

問 団体の活動分野

○子育て支援、児童福祉、ごみの適正処理・リサイクルの推進、防犯・防災・交通安全

問 団体の活動内容

- 子育てママのための防災セミナーを開催→家族や近所のための防災セミナーも最近開催している。（ママのための防災セミナー、年 2～3 回）
- 年 2 回、着なくなった子ども服などをチャリティフリーマーケットとして希望の丘で開催し、収益金を被災地に寄付する活動を行っている。（にこここママフェスタ）
- 蟹江西子育て支援センターにこここ運営（週 5 日）
- プレママ産後ケアサロン（月 1 回）にこここプレーパーク（子どもの遊び場）（月 1 回）
- ママのためのフィットネス講座（月 3 回）

問 団体が活動するうえで、課題となっていること。

- 近年のママさんは、仕事への復帰が早く若い世代の担い手が不足している状況にある。ただ NPO 法人化することで、有給スタッフが雇用できるようになり、担い手不足はやや解消しつつある。
- 各世代を巻き込んだ組織づくりなどやりたいことはたくさんあるが、人で不足でなかなか取り組めないことも多い。
- 防災出前講座など実施しているが、若い世代の出席率が低い。

問 今後、力を入れていきたいと考えている活動、積極的に取り組みたいと考えている活動について。

- 子育て世代への支援として、フードバンク事業との協働に取り組んでいきたい。（母子家庭や生活困窮家族が定期的に食料を受け取れる）そこで食品を縁に、社会とつながりを持つことができれば、本当に困った時に社会に頼れるネットワークができ、虐待の防止にもつながると思う。
- 現在は、新しい事業に取り組むことよりも、今行っている防災セミナーなどの事業を深掘りしていきたい。とにかく防災意識が低く、全く足りていないと思うので、これまでの自治会中心の活動に加えて、子どもから意識づける「教育」（釜石市で先進的な取り組み）と子育て世代への意識付けをするシステムを作りたい。「蟹江で子育てをする人は全員防災意識が高い」となるようにしたい。
- 敬老会、自治会、学区との連携はこれからも力を入れていきたい。
- にこここママフェスタなどでボランティア中学生に活動を支援してもらっている。（蟹江中学校、北中学校など）中学校からも社会活動への参加として、好評である。

問 町民と行政が協働してまちづくりに取り組むうえで、何が必要だと思うか。

- 町民が参加できるイベント・事業の実施
- 町民活動のための財源、補助金等
- テーマを持って取り組んでいる団体へイベント実施の支援、団体ごとの協働実施、町主導ではなく、団体主催「町がサポート」のイベント
- 2～3人でも集められる場所があれば、自然とイベントが生まれるのではないかと。お金の補助だけでなく、場所の提供だけでも助かる団体が多いのではないかと、また空家対策にもなると思う。
- 自身が中間支援団体に助けられたので、そのような存在になりたいと思っている。
(ボランティアネイバーズなど)

問 第5次蟹江町総合計画の策定に際して基本計画案（分野別施策）について

分野	この10年で良くなったこと 改善されたと感じる事	課題である、不安であると感じること 改善を求めること
【子育て・福祉・健康】 1.「ふれあい、ささえあい」 ホッとやすらぐまちづくり	○支援センター運営。 ○予防接種が増えた。 ○高校無償化。 ○幼稚園の延長保育の実施。	○中高生に限らず子どもたちの遊ぶ場所が少なくなっている。特に公園の数は学区によって差があるので、難しいとは思いますが遊べる場所を増やしてほしい。 ○防災への備えとして、現在復旧作業にはボランティア作業員が中心となっているが、コロナ禍では頼ることはできな所以对策が必要。 ○課外活動が減った。 ○外国語授業。 ○備災・防災意識の欠如。
【行財政・共生】 5.「みんなで取り組む」元気なまちづくり	○フェスタなど行政と連携したイベントが増えた。 ○市民団体が増えた。	○子ども会など参加者減。

その他の意見

- 多世代交流センターなど公共施設へのWi-Fi設備を整備してほしい。



④NPO法人活き活きかにえスポーツクラブ

団体の人数（メンバー構成）および活動範囲

活動年数	構成人数
11 年目	構成員 9 人 男性 4 人 女性 4 人 平均年齢 59 歳くらい

問 団体の活動分野

○健康づくり、生涯学習、教育・青少年健全育成、生涯スポーツ

問 団体の活動内容

○総合型地域スポーツクラブとして、子どもから高齢者を対象に健康づくり、仲間づくりを行政と連携し行っており、「いつでも、どこでも、誰でも、いつまでも」をモットーに生涯スポーツの発展に寄与している。

問 団体が活動するうえで、課題となっていること。

- 各年代が自由に参加できる講座を準備したいが、施設不足等により偏った年代の種目になっている。
- 構成員スタッフ、ボランティア等の確保と世代交代が心配。

問 今後、力を入れていきたいと考えている活動、積極的に取り組みたいと考えている活動について。

- 学校施設の有効活用を図り、子ども達の体力向上に取り組みたい。
- 高齢者が参加できる施設の分散化を図ること。（一定年齢になるとクラブに参加できなくなることから）

問 第5次蟹江町総合計画の策定に際して基本計画案（分野別施策）について

分野	この10年で良くなったこと 改善されたと感じる事	課題である、不安であると感じること 改善を求めること
【行財政・共生】 5.「みんなで取り組む」 元気なまちづくり		○町民が高齢化しているせいか、全体に 活気が見られないことが心配である。

その他の意見

○須成祭りの巻藁舟を蟹江川の舟入地区か佐屋川で夏祭りのイベントとして神事とは別に行い、
広い所で町民が見学できるようにしてはどうか？

⑤蟹江町スポーツ協会

団体の人数（メンバー構成）および活動範囲

活動年数	構成人数
60 年目	構成員 1126 人 男性 722 人 女性 404 人 平均年齢 55 歳くらい

問 団体の活動分野

○健康づくり、子育て支援、生涯学習、教育・青少年健全育成、生涯スポーツ
地域組織・住民活動支援

問 団体の活動内容

○スポーツを通じて、住民の健康への意識と健康維持
○スポーツを通じて、協会員の融和
○大会・練習を通じて技術の向上

問 団体が活動するうえで、課題となっていること。

○会員数の減少
○体育館・グラウンドのスポーツ関連施設の数に限られているため、いかに各団体に公平に使用してもらうか。

問 今後、力を入れていきたいと考えている活動、積極的に取り組みたいと考えている活動について。

○中学生・高校生・大学生が積極的にスポーツ活動に参加できる体制づくり。

問 第5次蟹江町総合計画の策定に際して基本計画案（分野別施策）について

分野	この10年で良くなったこと 改善されたと感じること	課題である、不安であると感じること 改善を求めること
【行財政・共生】 2.「歴史・文化・愛着」誇りを育むまちづくり	○体育館・体育館分館のリニューアルと使用時間の改正。	○夏の熱中症対策。 ○体育館・体育館分館のクーラーを設置してほしい。

⑥蟹江町文化協会

団体の人数（メンバー構成）および活動範囲

活動年数	構成人数
42 年目	構成員 551 人 男性 215 人 女性 336 人 平均年齢 60 歳くらい

問 団体の活動分野

○生涯学習

問 団体の活動内容

- 芸術文化活動の普及と生涯学習まちづくり。
- 文化は、感性と人間性を磨き人間の生活に潤いを与え豊かな暮らしにつながる生き甲斐づくりや生涯学習の場として、各部門の発表会や「蟹江文化」の発行、文化協会研修、町民文化祭、生涯学習大会、町民まつり、沖縄読谷まつりなどに出席、他団体との交流など各種多彩な分野で活躍しています。また自主的な活動に向けて努力しています。

問 団体が活動するうえで、課題となっていること。

- 文化施設の不足と会員の高齢化、自主自立に向けた活動で会員の高齢化と事務能力に課題があり、行政の支援、積極的な意見交換、交流の場が必要。
- 小中学校や他団体など世代間を超えて芸術文化の伝承と後継者の育成を図り、文化協会加入の促進と文化の裾野を広めたい。楽しく愉快に持続できる指導者が必要。

問 今後、力を入れていきたいと考えている活動、積極的に取り組みたいと考えている活動について。

- 文化を通して楽しく元気に過ごすこと。文化は人々に楽しさや感動、生きる喜びや人生を豊かにするため、生き甲斐づくり、町づくりに寄与したい。近隣市町や他団体との交流などあらゆる世代の方々と芸術や趣味を通して多くの仲間を持ち会員の加入を促進し、人づくりの生涯学習の場にしたい。

問 第5次蟹江町総合計画の策定に際して基本計画案（分野別施策）について

分野	この10年で良くなったこと 改善されたと感じる事	課題である、不安であると感じること 改善を求めること
【教育・文化】 2.「歴史・文化・愛着」誇りを育む まちづくり	○文化協会の自主自立に向けて生涯学習課から主要業務を移管。 ○文化協会事業と他団体との交流や美術体験など文化の魅力を発信した。 ○文化協会創立40周年（平成30年12月）記念事業で、従来方式から新たに愛知県内の「地域の祭り」と文化について」の基調講演と地域の伝統文化財について学んだ。 ○中央公民館の改修でトイレが明るく使いやすくなった。	○行政の文化に対する興味が無いこと。 ○体育館を美術展や町民文化祭などに利用しているがフロアがスポーツ用で傷つけないか心配である。常時・展示発表できる施設がほしい。 ○文化事業について、行政と企画、予算化など協議要望の機会を設けてほしい。 ○舞台の出番待ちをするスペースが狭く混雑するため移動しやすいように改修を要望します。

⑦かにえ国際交流友の会

団体の人数（メンバー構成）および活動範囲

活動年数	構成人数
28 年目	構成員 約 100 人 男性約 40 人 女性約 60 人 平均年齢 60 歳くらい

問 団体の活動分野

○国際交流・多文化共生

問 団体の活動内容

- 住民主体の国際交流を目的とした活動を推進。町内外の外国人を対象に日本語教室を開催し、会員対象としては英会話教室でグローバル社会に対応できる人材育成に努めている。
- クリスマス会や町民祭りでは多くの外国人と交流できる場を作っている。
- ホームステイ受け入れ事業は家族で外国人とのふれあうことができる機会として提供。全町民を対象とした国際理解講座では様々な国を紹介し、世界に見聞を広めていただくことを目的として年 1 回開催している。

問 団体が活動するうえで、課題となっていること。

- 会員の高齢化に加え、運営を行っている役員の高齢化も進み、若い役員の加入を切望しているが難しい。
- 会の備品を保管している旧福祉センターは電気の使用が禁じられているため、真夏は備品の搬入搬出が暑く、秋冬は日が落ちると真っ暗で作業に困難をきたす。
- 日本語教室、英会話教室、役員会を開催している中央公民館はコロナ禍で使用に大きな制限があった。出来れば KIFA 独自の施設を持ちたい。

問 今後、力を入れていきたいと考えている活動、積極的に取り組みたいと考えている活動について。

- 災害時における外国人支援体制の整備。
- 外国人の生活支援のために相談窓口の開設が必要と考えている。
- 国際交流活動を広く知ってもらうための啓発活動を行い、多文化共生を推進。
- 外国人の子どもが不就学にならないよう学校へ入学する方法を知らせ、手続きを手伝う。

問 第 5 次蟹江町総合計画の策定に際して基本計画案（分野別施策）について

分野	この 10 年で良くなったこと 改善されたと感じること	課題である、不安であると感じること 改善を求めること
【行財政・共生】 5.「みんなで取り組む」元気なまちづくり	○行政と住民が協働で事業を行う土台や基礎が出来つつあると思う。 ○国際理解教育の推進等で、外国人に対する偏見が減り、理解が進んでいる。	○少子高齢化が進み、住民の地域に対する意識の希薄化が今後益々顕著になっていくのではないかな。 ○町内会、子ども会、長寿会などの一番身近な共同体に属することを望まない人が増えていくことをくい止める必要がある。

⑧学戸ホタルの会

団体の人数（メンバー構成）および活動範囲

活動年数	構成人数
13 年目	構成員 35 人 男性 28 人 女性 7 人 平均年齢 70 歳くらい

問 団体の活動分野

○地球温暖化対策、地域環境

問 団体の活動内容

○学戸小 5 年生の生徒とホタルの幼虫の数を数えることやホタル小屋に放流をしてもらい、現実に地球上で起きている事の話をしています。

問 団体が活動するうえで、課題となっていること。

○次世代の方が、加入してもらえないことです。

問 今後、力を入れていきたいと考えている活動、積極的に取り組みたいと考えている活動について。

○私どもの団体が、いつまでも継続していけるように願い活動しています。

問 第 5 次蟹江町総合計画の策定に際して基本計画案（分野別施策）について

分野	この 10 年で良くなったこと 改善されたと感じる事	課題である、不安であると感じること 改善を求めること
【環境・安全】 3.「住み続けられる」 安全・安心なまちづくり	○ホタル小屋の周辺環境が良くなってきている。	○ホタルの幼虫が少なくなっていること。

その他の意見

○文化や趣味の在り方が時代の変遷と共に多様化した。芸術文化の伝承、後継者の育成などボランティア活動には限界がある。生涯学習を通じた人づくり町づくりには予算化が必要です。生活様式や情報の多様化、高齢化で会員が減少しており指導者の育成と会員の加入促進が課題です。

⑨非営利団体ONiGiRi

団体の人数（メンバー構成）および活動範囲

活動年数	構成人数
2 年目	構成員 61 人 男性 22 人 女性 39 人 平均年齢 40 歳くらい

問 団体の活動分野

○子育て支援、児童福祉、地域福祉、教育・青少年健全育成、防犯・防災・交通安全

問 団体の活動内容

○蟹江町内において、子ども食堂（土 or 日 11 時～16 時）を月に一度、学習型こども食堂（平日 16 時～19 時）を月に 2 回行っている。
○子ども達と一緒にごはんを作り一緒に食べることで調理を自然に身につけることや孤食を減らす取組、子ども達の居場所作りとして活動している。
○学習支援は、コロナ禍において学習の遅れを心配する子ども達へ勉強を教える。
○被災地支援活動を行っている。直接的支援としての現地での活動、後方支援として物資を送っている。（不定期フードパントリー、お弁当パントリー）

問 団体が活動するうえで、課題となっていること。

○現代社会問題である、いじめ・引きこもり・自殺・ネグレクトなどの問題を解決していく為の居場所作りをしているが、見守りや保護を行うにあたり活動できる場所の確保が難しい。

問 今後、力を入れていきたいと考えている活動、積極的に取り組みたいと考えている活動について。

○不定期で行っている夕食デリバリー支援（お弁当パントリー、1 回につき 50～60 食）を多くの方に利用していただけるように広めていきたい。
○被災地支援から学んだことを伝えていく。防災を深く学べる子ども食堂の展開をする。

問 第 5 次蟹江町総合計画の策定に際して基本計画案（分野別施策）について

分野	この 10 年で良くなったこと 改善されたと感じる事	課題である、不安であると感じること 改善を求めること
【子育て・福祉・健康】 1. 「ふれあい、ささえあい」ホッとやすらぐまちづくり	○中学生までの医療費が、無償化されたこと。 ○病児保育ができたこと。 ○各地域にふれあいサロンが増えたこと。	○虐待やネグレクトで悩む人の受け皿づくり。 ○不登校で悩む子どもとその家族のケアハウスなどの施設。
【環境・安全】 3. 「住み続けられる」安全・安心なまちづくり	○木曽川下流 8 市町村による「広域避難」連携発信がされるようになったこと。	○特別警報が発令された時の住民への周知方法の改善。
【行財政・共生】 5. 「みんなで取り組む」元気なまちづくり		○担い手となるリーダーの確保と人材育成。

⑩蟹江川をきれいにする会

団体の人数（メンバー構成）および活動範囲

活動年数	構成人数
30 年目	構成員 32 人 男性 23 人 女性 9 人 平均年齢 68 歳くらい

問 団体の活動分野

○ごみの適正処理・リサイクルの推進、自然との共生、地域環境、地域組織・住民活動支援

問 団体の活動内容

○春・秋の川の清掃
○河川パトロール年 2 回
○水道調査 12 か所、7 月に行っている。
○プランター維持管理
○会報「かにえ川」2 月に発行、全戸配布
○総会 年 1 回 理事会年 2 回 文化祭出展

問 団体が活動するうえで、課題となっていること。

○会員数を増やしたい、現在は嘱託員 80% 婦人会 OB も含む 12% 町団体 2% 会員 6% 理事 30 名程度

問 今後、力を入れていきたいと考えている活動、積極的に取り組みたいと考えている活動について。

○蟹江川が一番下流にあるため、上流（大江川）からいろいろな物が流れてくるのではないかと
いう意見もあり一度どこかで（天王橋）でネットを張り調査をしたい。
○何がどの程度流れてくるのかを公表したい。

問 第 5 次蟹江町総合計画の策定に際して基本計画案（分野別施策）について

分野	この 10 年で良くなったこと 改善されたと感じる事	課題である、不安であると感じること 改善を求めること
【環境・安全】 3.「住み続けられる」 安全・安心なまちづくり	○川面に浮いていたゴミの量が減少した。	○不法投棄が増加した。町民に一層のご協力を求めたい。
【都市基盤・産業】 4.「ちょうどいい」 快適・便利なまちづくり		○役場西側の道路が JR 線で止まっている。いつ完成するかは別として、地下道で通行できるよう努力してほしい。

その他の意見

○舟入、鹿島地区の水辺スポットの利用方法について、鹿島側は草がいっぱいでどうにもなりません。草は常に刈り取り、最低限散策ができるようにしてほしい。
○舟入側は、蟹江川の水をくみあげ浄化（濾過）装置を設置して水路につくり、水を流して水遊びができればよいのでは。

⑪富吉防犯パトロール隊

団体の人数（メンバー構成）および活動範囲

活動年数	構成人数
10 年目	構成員 18 人 男性 13 人 女性 5 人 平均年齢 72 歳くらい

問 団体の活動分野

○地域福祉、地域環境、防犯・防災・交通安全、公園・緑地

問 団体の活動内容

- 毎月 2 回（1 日、18 日）の夜のパトロール
- 毎日小学生の登下校見守り活動（5 日/週）
- 愛知県警及び蟹江警察署からの防犯情報を、町内掲示板（6 か所）に掲示し、注意喚起と犯罪情報の共有化
- 住民を対象とした防犯セミナーや蟹江署とタイアップした住宅の防犯診断の実施（1 回/年）
- 犯罪者への威嚇ポスターの掲示及び全戸に掲示した「防犯ステッカー」と「防犯のぼり」の補修
- 赤色回転灯の夜間ランダム点灯（1 年間毎日）
- 富吉地域公園の清掃（1 回/週） 防災訓練（2 回/年） 高齢者福祉（サロン活動・・・1 回/2 か月）

問 団体が活動するうえで、課題となっていること。

- 児童の見守り活動については人材不足（高齢化、人手不足、新しい企画をする人材）
- ボランティア精神を理解する人が少ない。
- 防犯カメラ・赤色回転灯等の防犯機材不足。
- 登下校時の通学路を制限速度の 2 倍以上で走行する車両が多い。要取締まり。（雨天の水溜りはね）
- 町民への「おはようございます」等の挨拶声掛け活動の実践が出来ない。（勇気が必要）

問 今後、力を入れていきたいと考えている活動、積極的に取り組みたいと考えている活動について。

- 蟹江町は、近鉄富吉駅の南北に駐輪場が多くあり、自転車盗難も蟹江町内で最も多い地区となっている。これに対し、防犯カメラは 1 か所あるのみである。このため治安の観点からも防犯カメラと防犯灯をセットで 10 基以上設置し自転車盗難をゼロに近い件数にしたい。
- 富吉町内の住宅の防犯診断をもっと数多く実施するとともに、現在留守宅が多いので、土日に実施して防犯意識の高揚にもつなげていきたい。（住宅侵入盗の撲滅）
- 防犯活動に積極的に企画・活動するリーダーと実践者の育成拡大。

問 第5次蟹江町総合計画の策定に際して基本計画案（分野別施策）について

分野	この10年で良くなったこと 改善されたと感じること	課題である、不安であると感じること 改善を求めること
【環境・安全】 3.「住み続けられる」安全・安心なまちづくり 3-5 防災・危機管理	○当町内会は、保存食・保存水が最低限ではあるが備蓄できた。 ○浸水対策としてのボートを自主防災対策として町の補助金により備え付けた。	○浸水対策について、個人の意識が低く、備えが出来ていない。このため、ハザードマップをベースに作成したDVDにより、住民の意識啓発を早期にしたい。特に一人住まいの高齢者を優先に。 ○避難所への太陽光電池の設置。 ○防災訓練の繰り返し実践。
【環境・安全】 3.「住み続けられる」安全・安心なまちづくり 3-6 防犯・交通安全	○防犯灯の設置増とLED化により夜間の明るさが向上し、以前に比べ治安が向上した。痴漢件数も激減。 ○当町内の住宅侵入盗は減少。	○しかしながら、まだまだ暗い所があり不安個所が多い。 ○住宅侵入盗の撲滅。
【都市基盤・産業】 4.「ちょうどいい」快適・便利なまちづくり		○近鉄富吉駅北地区は、生鮮食料店・病院・コンビニ等がなく、近鉄を横断していかなければならなく不便である。特に高齢者には厳しい現実であり、以前より悪い環境になっている。 ○富吉駅南地区の発展が進まない。 ○交通の利便性を活かした一大商業地の誘致。

⑫⑬⑭⑮商工会青年部

蟹江一番街発展会・尾張温泉郷発展会・アROUND近鉄蟹江発展会

問 団体の活動内容

【商工会青年部】メンバー40名

- 個人商店の若い世代が、入ってこなくなっている。(2代目など) 青年部の平均年齢が35~45歳となっており、廃業される方も多い。
- 町民まつりが2年連続で中止となっているので、何かイベントを企画したい。

【蟹江一番街発展会】

- 最近、大きなイベントは実施していない。準備の大変さや小学校の盆踊りが開催されるようになったため。今後は、本来の目的である加盟店の利益や発展を目指したい。
- コロナ対策として、インターネット販売等の実施(未来チケット3000冊完売)、動画配信などを企画している。
- 後継者不足が課題なのでなんとかしたい。(例えば、高崎市の崖っぷち女将など)
- 最近では、空き店舗がそのまま残らず、更地になることが多いため、店舗として減ってきている。行政に旗振り役になってほしい。
- 大学生を取り込んだまちづくりを考えてほしい。
- 住民の増加を目指した政策を考えてほしい。

【尾張温泉郷発展会】加盟店数120店→80店へ減少

- 桜まつりや七夕まつりの実施。
- 世代交代を行っている。内容のマンネリ化を若い世代の力で打破したい。
- チェーン店が増加しており、チェーン店は加盟しない問題や人の入れ替わりが激しい。

【アROUND近鉄蟹江発展会】メンバー、20団体+10団体(飲食・物販など)

- 弁天まつりや桜まつりなど、年に1~2回イベントを実施。一番街発展会との連携。
- SNSを活用し、外に蟹江の魅力を発信することに力を入れていきたい。(かにえウォークラリー、空き家の利活用)
- シャッター街で行う体験コースに取り組んでいきたい。(銭洗い、お酒の試飲、ボランティアガイドなど)
- 温泉のPRに力を入れてほしい。

その他の意見

- 近鉄駅南の市街化調整区域について行政の答えがないままになっている。
- 第4次蟹江町総合計画の積み残しについて、何が出来て、出来ていないのかを示してほしい。
- 舟入地区までなかなか人が来ない、まずは宝地区から開発を進めてほしい。
- 近鉄蟹江駅の南改札の設置や市バスの乗り継ぎ。
- 子どもたちが遊べる場所、公園の設置。(プレーパークなど)
- プレミアム商品券を単発ではなく、継続して(認知を深めて)ほしい。町外の人にも使えることを併せて宣伝してほしい。
- 歩きや自転車で行ける距離に店があるといい。→鍋蓋地区で月1~2回移動販売を行っている。行政の支援があるとありがたいが、現時点では新たなビジネスモデルとして継続していく。
- 歩道の整備やバリアフリーの整備をお願いしたい。
- 空き店舗が並んでいる中で、昔の輝きを取り戻すのは難しいので頑張っている個人店を支援してほしい。
- 大型店でもネット社会が発展する中、厳しい状況にあるので個人店の維持を図っていく。

- 商工会は、町全体を商店街としており、点ではなく面として捉えて支援している。
- 温泉と釣りに特化するのはいかがでしょうか。
- 将来像のイメージ図がほしい。
- 蟹江町がどんなまちづくりを目指しているかわからない。(見えてこない)
- それぞれの立場や意見、環境は違うけれども、町としての方向性を示してくれると一致団結して取り組める。
- 10年計画は長い。1年ごとに目標を立てて達成していくべき。
- リニアの開通により、間違いなく名古屋市は発展していくのでそれに合わせて町も発展していけるはず。
- もっとワクワクしたもの(計画)がほしい。
- 町のマスタープランについて、商業が尾張温泉のみなのが気になる。
- 最近、新規創業者が増えてきている。(女性も含む)
- SNS等の活用など行政に対してスピード感の差を感じる。町の発信力が弱い。
- 高齢者をターゲットにした商売になりやすい。
- メディアを使った情報発信を積極的に行うべき。
- 自分の店に対する危機感を感じる。ないものよりもあるものを活かしていく。
- 観光において、温泉などを資源としてPRしていく。
- 新規の工業用地、企業を誘致してほしい。
- 若い世代の新規創業者は多い。年に10件以上相談がある年もある。
- 最近、女性経営者が増えてきた。女性経営者が増えると、情報発信力が高くなる。みんなが意見を言いやすくなる、人の使い方も含めて男性と違うので、いろいろなメリットがある。女性が委員会などに入りやすい環境を作っていきたい。
- 定期的に、行政との話し合いの場を設けてほしい。



⑩あいち海部農業協同組合 蟹江支店

団体の人数（メンバー構成）および活動範囲

活動年数	構成人数
14 年目	構成員 370 人 男性 259 人 女性 111 人 平均年齢 40 歳くらい

問 団体の活動分野

○高齢者福祉、介護支援、農業の振興、地域組織・住民活動支援

問 団体の活動内容

○営農事業、経済事業、生活、資産管理、葬祭事業、信用事業、共済事業等の総合事業により地域農業の発展と安心安全な食料の安定的な供給に努め、豊かで活力のある地域社会創りに貢献しています。

問 団体が活動するうえで、課題となっていること。

○組合員の高齢化や後継者不足による農業従事者の減少や遊休農地の増加等、農業生産基盤の脆弱化に加え超低金利の影響を受け、事業利益が減少する中、働き方改革や会計監査人監査対応によるコスト増加が見込まれる。

問 今後、力を入れていきたいと考えている活動、積極的に取り組みたいと考えている活動について。

○農家の労働力不足の解消と産地の維持、活性化に向け農業無料職業紹介事業の運用開始により地域農業の継承と「農」を通じた豊かな地域づくりを目指す。

○地域に根差した協同組合として「食」と「農」の理解促進を図るとともに、支店を組織活動や相談活動の「くらしの拠点」とし利用者に親しまれ信頼される JA を目指す。

問 第5次蟹江町総合計画の策定に際して基本計画案（分野別施策）について

分野	この10年で良くなったこと 改善されたと感じる事	課題である、不安であると感じること 改善を求めること
【都市基盤・産業】 4.「ちょっどいい」快適・便利なまちづくり	○いちじくのPR努力により他県や名古屋市内からのお問い合わせが増えた。 ○土地改良区での水路管理が行き届いており、今後も助成金の継続をお願いしたい。	○相続による農業離れや耕作放棄地の増加が心配、今後農地集積をどのように進めていくかが課題です。 ○蟹江町は川や鉄道により地域が分断され、交通渋滞の主な原因となっており、町の発展が阻害されているように思います。 ○鉄道の高架化による市街地の一体化、利便性の向上、高架下空間の活用等により、駅周辺町全体の活性化につながるのではないかと思います。